

| | | タイプ別に比較した際の特徴（統計的に優位な項目について抜粋） | タイプ別の傾向 |
|------------------|-----------|--|---|
| 無関心タイプ 21.1% | 興味を課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○自身が「健康ではない」と思っている人の割合が高い(35.2%)。 ○「体に障害がある、寝たきりである、医者から運動を止められている」人が延べ9.6%含まれる。 ○地域行事やボランティア活動等の社会参加活動を「特に行っていない」人が多い(69.0%)。 ○「年をとった(19.3%)、好きでない(19.0%)、体が弱い(7.5%)」という理由で、スポーツを行わなかった人が多い。また、スポーツは「疲れる」と思う人が多い(25.3%)。 ○スポーツを行った理由に、「家族のふれあい」を挙げる人の割合が高く(25.1%)、実際に家族と行う人が多い(38.6%)。 ○小学生の頃、体を動かすことが好きだった人の割合が低く(51.8%)、嫌いだった人の割合が高い(20.5%)。 <p>【属性】「80歳以上」(13.0%)が顕著に多い。</p> | <p>⇒ スポーツが好きではないが、家族とのふれあいのためにすることがある。障害や高齢が理由で、スポーツにハードルを感じている。子どもの頃、体を動かすことが好きではなかった。</p> <p>↓ 計画体系における項立て ※(1)はタイプ内全体への取組、(2)はタイプに特徴的な層への取組</p> <p>(1)スポーツへのきっかけづくり (2)障害者スポーツの推進</p> |
| 実行間近タイプ 27.1% | 始めが課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○運動不足を感じており(97.0%)、健康維持増進のためスポーツを行いたい人が多い(81.2%)。 ○「仕事が忙しい(44.5%)、コロナ感染症により日常生活が変化したから(37.2%)」という理由でスポーツを行わなかった人が多い。 ○スポーツの相手として、「仲間・友人」の回答が少なく(19.1%)、「家族」の回答が多い(38.7%)。 ○スポーツができる時間数(63.8%)、場所(45.5%)、費用(36.8%)に不満を感じている人が多い。 ○自分の好きなスポーツのクラブ、同好会があれば加入したいと思っている人が多い(46.8%)。 <p>【属性】「40～44歳」(11.1%)、「女性」(30.3%)が多い。 同居している家族の中に、小学生以下の子どもがいる人が多い(23.3%)。</p> | <p>⇒ 運動不足や健康の維持増進のためにスポーツを行いたい、仕事や感染症等の影響から実施できていない。スポーツをするための時間や場所、費用すべてに不満を感じている。小学生以下の子を持つ子育て世代が多い。</p> <p>↓ //</p> <p>(1)身近で気軽に参加できるスポーツの機会の充実 (2)子育て世代に対するスポーツに触れる機会の提供</p> |
| ときどきタイプ 22.9% | 継続することが課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○楽しみや気晴らし(66.9%)からスポーツを行い、一緒にスポーツをする仲間や、(52.9%)、誘ってくれる仲間がいる人が多い(42.3%)。 ○「健康や体力づくりに役立つ(96.7%)や、家族や友人とのコミュニケーションが深まる(49.0%)、新たな人とのつながりが生まれる(36.8%)」など、スポーツを肯定的に感じている人が多い。 ○積極的に応援しているスポーツチームや競技者・愛好者がいる(ある)人が多い(6.4%)。 ○区体育施設に、手頃な料金での利用(40.4%)や、夜遅い時間帯の使用(36.2%)を期待する人が多い。 ○オリ・パラを通じ、スポーツへの関心が高まった人が多い(28.4%)。 ○コロナ感染症拡大前と比べて、家族と過ごす時間が増えた人(46.5%)や趣味を楽しむ時間が増えた人が多い(21.7%)。 <p>【属性】「25～29歳」(10.0%)、「男性」(26.8%)、「正社員・正規職員」(49.9%)の割合が多い。</p> | <p>⇒ 仲間・友人や職場の人々と楽しみや気晴らし、交流を目的にスポーツを行っている。ファン活動をする人や、オリ・パラを通じてスポーツへの関心が高まった人など、多様な楽しみ方を享受している人が含まれている。正社員・正規職員を中心とした勤労者が多い。</p> <p>↓ //</p> <p>(1)地域でスポーツができる機会の充実 (2)勤労者に対するスポーツ支援の実施</p> |
| 継続タイプ 28.7% | つなげる・ひろげる | <ul style="list-style-type: none"> ○健康に注意をはらっている人(94.2%)や、健康維持増進のためにスポーツを心がけている人が多く(90.9%)、コロナ感染症拡大により、意識的に行うようになった人が多い(21.3%)。 ○スポーツに関して自分のことを理解してくれると感じている人が多い(72.0%)。 ○スポーツが、人生にとって大切と思っている人(46.7%)や、自分なりの楽しみ方を知っている人が多い(48.4%)。 ○「人にアドバイスや指導をしている(29.8%)、仲間をスポーツに誘っている(30.2%)」人が多く、ボランティア活動として「スポーツ・運動の指導をしている人」(43.3%)の割合が多い。 ○民間スポーツ施設などが開設している会員制クラブに加入している人が多い(48.0%)。 <p>【属性】「35～39歳」(6.0%)、「60～79歳」(36.4%)、「男性」(31.1%)の割合が多い。</p> | <p>⇒ 健康維持増進のためにスポーツを積極的に行っている。スポーツをすることに対して周囲に理解者が多く、人を誘ったりアドバイスや指導をしたりしている。コロナ禍でも積極的にスポーツを継続しており、その価値を認めている。60～79歳の高齢者が多い。</p> <p>↓ //</p> <p>(1)豊かな地域をつくる人と人とのつながり (2)高齢世代に向けたスポーツや運動の支援の充実</p> |

注) 調査上、「スポーツ・運動」と表記していた箇所について、「スポーツ」に表記を統一しています。